

# 朝風

No.13

令和4年9月29日



## 全国学力・学習状況調査結果の報告

本年度、3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（4月19日実施）の結果が返ってきました（すでに個人票は生徒に配付されています）。これを分析し、本校生徒の強みと弱みを検証しましたので報告します。なお、この調査で本校生徒の学力のすべてが測定できるものとは考えておりません。また、この結果が、通知表等の成績に加味されることはありません。



### <各教科正答率>

	国語（平均正答率）	数学（平均正答率）	理科（平均正答率）
本校	75.0	62.0	56.0
三重県	68.0	52.0	48.0
全国	69.0	51.4	49.3

全ての教科について、平均正答数・平均正答率が全国・県平均を上回っています。基礎基本について十分な定着が図られ、応用問題についても解決する能力が高いと考えられます。また、各教科において無回答も少なく、最後まで粘り強く問題に取り組んでいる朝日っ子の姿が伺えます。

□国語に関しては、どの領域も、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。特に、「自分の考えがわかりやすく伝わるように、表現を工夫して話す」「表現の技法についての理解」「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写を基に捉える」においては、10ポイント以上上回っています。無解答の割合については、14問中13問（うち無解答なし4問）が全国・県平均を下回っていました。記述式の問題においても、3問中2問が60%以上の平均正答率となっています。



□数学に関しても、多くの領域で、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。特に、「数と式」「関数」においては、10ポイント以上上回っていました。記述式の問題においても、3問中3問とも全国・県平均を上回り、最後まであきらめず問題に向かおうとしている姿勢が感じ取れました。さらに「自然数の素数の積で表すことができる」では20ポイント以上上回っており、基礎的な力の定着が伺えます。

□本年度実施された理科についても、21問中19問で平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っています。無解答の割合も21問中19問（うち無解答なし14問）が低く、特に、「生命を柱とする領域」や記述式の問題の「予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる」においては10ポイント近く全国の平均を上回っていました。



## <学習状況についての特徴的な強みと弱み>

### <国語>

- ◎自分の考えがわかりやすく伝わるように、表現を工夫して話す（全国+10.2）
- ◎表現の技法について理解する（全国+20.2）
- ◎場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える（全国+10.0）
- 文脈に即して漢字を正しく書く（全国+7.9）

### <数学>

- ◎自然数を素数の積で表すことができる（全国+28.5）
- ◎多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している（全国+11.4）
- ◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している（全国+11.5）
- ◎事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる（全国+15.6）
- ▼反例の意味を理解している（全国-5.6）

### <理科>

- ◎水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる（全国+11.1）
- ◎力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる（全国+12.0）
- ▽継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる（全国-1.5）
- ▽液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる（全国-3.2）



## <学校質問紙についての特徴的な状況>

本年度より、研修主題を『人間力を涵養する授業づくり～楽しく学べる手立てと工夫～』とし、失敗を恐れず、生徒の実態に合わせた創意工夫ある授業を展開しながら「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の実現に向けた授業づくりに力を入れています。結果、対象生徒が「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか（全国+14.7）」という項目や「数学の授業の内容はよく分かりますか（全国+11.8）」、「理科の授業の内容はよく分かりますか（全国+12.8）」等、各教科の学習面においては特に、全国平均より高い数値として表れています。

## <学校での取組の成果について>

「ねらいの提示」と「振り返り活動」を全教科で統一して実施し、教師、生徒の意識を共に高め、1時間の授業の中で何を行っているのかを明確にすることで、授業改善を行ってきました。特に「振り返り活動」においては、個人用タブレット等のICT機器を効果的に活用する授業を計画的に行い、今後も引き続き、生徒の学習意欲・学力向上に努めていきたいと考えています。また、少人数を対象としたきめ細やかな授業の中で、生徒間での教え合いや聞き合い、学び合いが促進され、机間指導（支援）でのアドバイスや声かけなどもより丁寧なものになりました。今後も全教科において、小グループでの話し合い活動を授業の中で効果的に組み入れることで、生徒間の言語活動が促進され、各生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒一人あたりの活動量を増やしながらか、基礎・基本の徹底や応用力を伸ばしていきたいと考えています。

## <生徒の学びの充実を図るための今後の取組について>

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として一連の行事・活動の中止・延期・規模縮小等を余儀なくされましたが、生徒質問紙の回答で唯一気になった「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか（全国-5.7）」という項目にも、これらの影響が少なからずあったのではと考えます。まだまだ厳しい状況は続きますが、今後も状況を見極めながら、できる限り子どもたちにとっての体験活動や自然と触れ合う機会を見出していけるよう、改善に向けて取組んでいきたいと思ひます。また、これまで大切にしてきた学校と家庭、地域の連携活動にも取組んでまいりたいと思ひます。